

コメツガ

Tsuga diversifolia (Maxim.) Mast.
マツ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

高山帯・亜高帯～温帯上部に生育する常緑針葉樹。情報をもとに今回調査し、温帯上部の岩場を中心に確認できた。産地が限定されているので、絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

常緑の高木。樹皮は灰褐色で浅く縦裂し、細長い亀甲状鱗片にはがれる。若枝は汚褐色で、短毛が多い。葉は線形でツガより短く長さ4～14mm、幅約1.5mm。花は6月頃で、毬果は10月頃褐色に熟す。種子は倒卵形で長さ3～4mm。翼は種子本体とほぼ同長である。

分 布

本州（中北部・紀伊半島）～九州（祖母山）に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

高木は強風雪、岩場崩壊等で倒木する等生育環境は厳しい。幼樹の成長が極めて遅く、広い純林の形成は見られない。産地局限、気候変動。

参考文献 福井県樹木誌（2011）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミヤマビャクシン

Juniperus chinensis L. var. *sargentii* A.Henry
ヒノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地は1地区である。生育環境は岩場や砂れき地に限られ、厳しい自然条件下に生育している。また、盆栽用として乱獲され著しく減少しているため、絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

主幹が横に伏して著しく屈曲し、枝が斜上する低木。老木では鱗片葉を付けるものが多いが、若木では針状葉を混生する。毬果はビャクシンに似ている。高山の岩場や岩地に適応したものと考えられる。

分 布

北海道～九州に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、園芸採取、自然遷移。

参考文献 福井県樹木誌（2011）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハリノキテンナンショウ

Arisaema ishizuchiense Murata subsp. *brevicollum* (H. Ohashi et J. Murata) Seriz. var. *alpicola* Seriz.
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

福井県が分布の南限で、生育地が極めて限定されており、個体数も少ない。過去10年間未確認。

種の特徴

多雪地帯に生える多年生草本。高さ10～30cm。葉は1個、葉身は5小葉に分裂する。小葉は長楕円形あるいは披針形、ときに不規則な鋸歯がある。花序は葉より少し早く伸長するが、後に花序柄は葉柄とほぼ同長になる。仏炎苞は淡紫褐色で紫色の斑紋が多く、特に腋部の外面は緑色を帯びる。

分 布

本州（中部地方）の日本海側の多雪地帯に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

生育を脅かす要因

生育を脅かす要因として開発等による生育地の破壊。また珍しい花なので山草愛好家による採取の対象になりやすいこと。保全対策として生育地の保全と採取の禁止。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	